

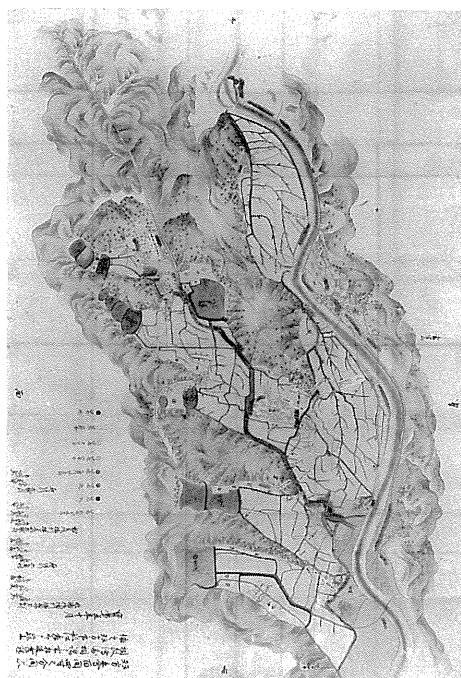


# 『峰相地区』をたずねて

峰相地区は、昭和54年に白鳥・曾左両小学校区から分離して峰相小学校が誕生してできた。現在、六角・刀出・刀出栄立町・打越の一部・白鳥台一丁目・同二丁目・同三丁目・緑台一丁目・同二丁目からなる。「峰相」の名は、峰相千軒や明治期の峰相尋常小学校のようにはやくから用いられていたが、由来は地区の西に鶏足寺という古刹があった峰相山から名付けられた。

この地区は、菅生川によって扇状地や河岸段丘が発達した地である。はやくから開け、白鳥池や伯母池の畔から縄文時代後期から弥生時代にかけての石器の破片が出土し、窯跡や古墳も確認された。最近は多くの集落跡も発掘された。江戸時代は、飾西郡に属した六角村と刀出村は姫路藩領、揖東郡に属した打越村ははじめ姫路藩領、その後龍野藩領・幕府領などをくり返して明治を迎えた。

打越村は明治22年飾西郡に編入して余部村の大字となり、六角村・刀出村は曾左村の大字となった。昭和21年姫路市に合併。昭和54年1月に刀出栄立町が成立し、その後もベッドタウンとして開発がすすみ自治会数も増えた。



宝暦7年(1757)村絵図(打越自治会文書)  
峰相地区全体が描かれている(上が北)



▲峰相山を望む(右下は峰相小学校)



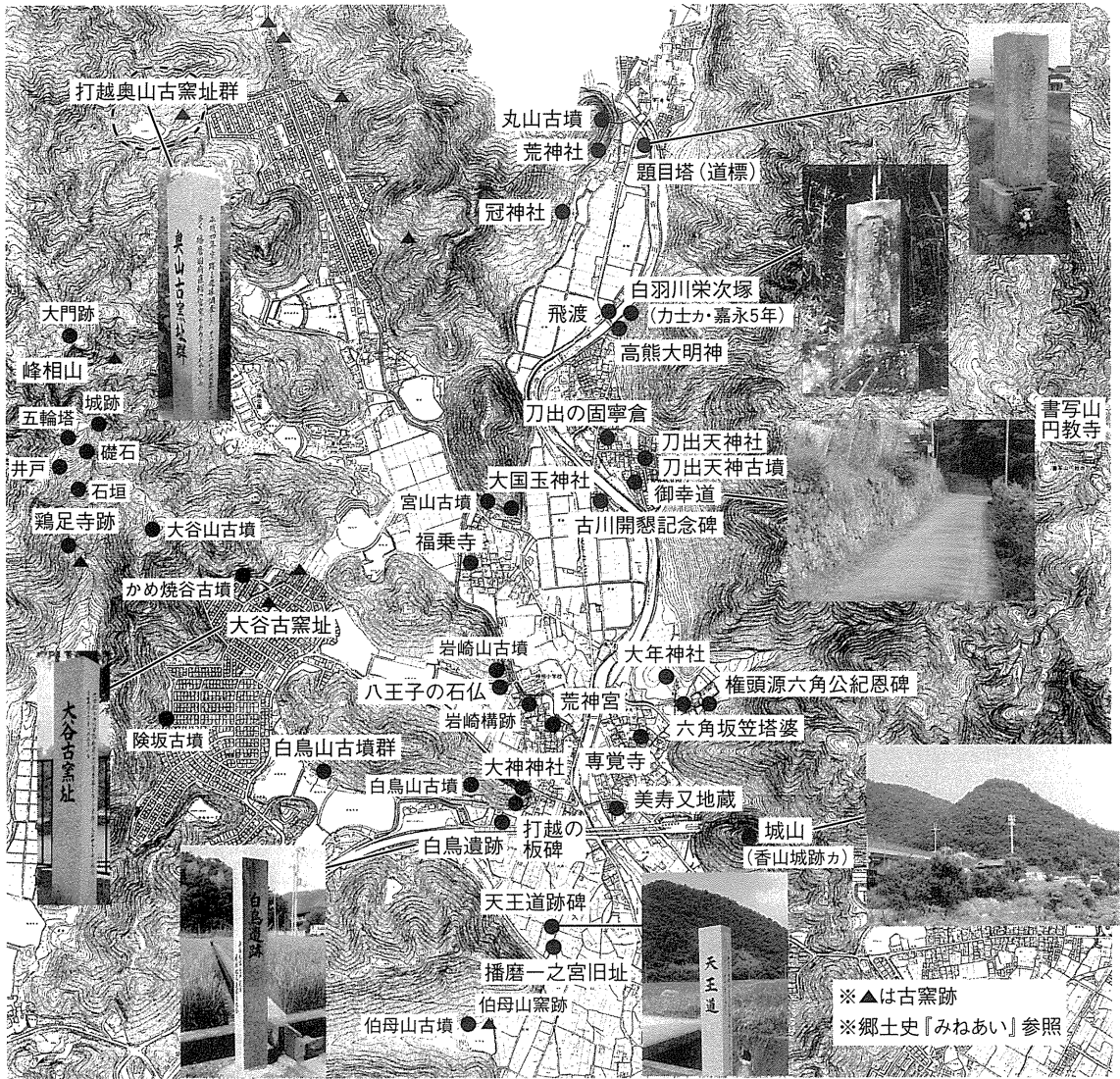
◀打越古窯址出土の鴟尾 『日本の美術』  
66号の179図

▼打越奥山古窯址発掘時の様子



峰相山鶏足寺跡 峰相山は『播磨国風土記』にみえる<sup>いななやま</sup>稲種山に比定される。当山上にあった<sup>けいそくじ</sup>鶏足寺は、貞和4年(1348)の『峰相記』に、新羅の王子の草創と伝え、神護景雲(767~770)ごろには多くの伽藍があり、10世紀には空也や性空も修行したと記している。はやくから衰頹したが、天正5年(1577)羽柴秀吉に抵抗したため全山焼き打ちにあった。現在、山頂部あたりに数基の五輪塔や経塚跡などがあり、やや南には礎石や堂宇・僧坊跡とみられる地がある。

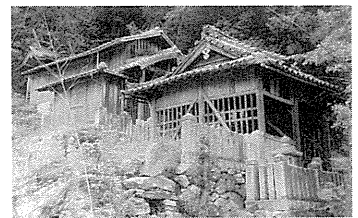
峰相山窯跡群 打越から石倉にかけての山腹や麓で、7世紀末から8世紀初めの須恵器窯跡が数多く発見された。今は多くが消滅したが、須恵器のほか瓦を焼いた窯もある。打越奥山古窯址は平成4年に1~5号窯の発掘調査で15基を<sup>しび</sup>検出し、播磨国府直轄の官窯であったと考えられている。打越の窯跡(大谷古窯址か)から出土した鴟尾の破片は、大阪の四天王寺の鴟尾と同等のものだという。



**冠神社** 刀出の氏神。神社の背後の山の中腹にある烏帽子に似た冠岩とよばれる巨岩が御神体。伝承では、この岩を国土創造神である伊弉册尊の冠だといわれている。『飾磨郡誌』は祭神を飽咋之宇斯能大神としている。

**刀出天神社** 刀出と栄立町の境にある。刀出天神由来記によると、天正2年(1574)、西田家の北西にあたる小山より掘り出された太刀一振りや置塩城主に献上したところ、代物として30cmほどの東帯姿の石の坐像を与えられ、この像を御神体にして祭ったのが当社であるといい、このとき、村名を櫻谷村から刀出村に改名したとある。刀の出土については、永和2年(1376)に香山(刀出の西方の山か)から出土したという話(天正4年『播州府中記』)や、永享4年(1432)の説(『播磨鑑』)もある。

**刀出天神古墳** 天神社の真下にある。石室が狭長の横穴式古墳で、神社の石段の右側に羨道の入口がみえる。



冠神社



刀出天神と刀出天神古墳

**とびと** 飛渡 刀出橋の少し上流で、むかし菅生川を石づたいに渡っていたところを飛渡という。昭和51年の洪水で平らな石が3個発見され、現在その後に見つかった石をも使って河床に並べられている。

高熊大明神 刀出橋の東たもとにあって、伏見稲荷大社の分社といわれ、農耕神として信仰されている。

刀出の固寧倉 飢饉や災害に備えて米や麦を蓄えた倉で、天保11年(1840)に建造された。「固寧」の名は、書経の「民は惟れ邦の本、本固かれば邦寧し」による。間口3間、奥行2間の土蔵造りで、固寧倉の扁額は天保12年のもの。昭和7年現在地へ移築され、平成7年市指定文化財となる。現在固寧倉は、市内では刀出と白浜・妻鹿・野里・東山にのみ残っている。

**ごこうみち** 御幸道 長保4年(1002)花山法皇が性空上人の隠居所である弥勒寺(飾磨郡夢前町)をたずねたときの道と伝えられ、「おなり道」ともいう。六角の大歳神社付近から書写山西麓を通過して刀出へ向かう道。

古川開墾記念碑 菅生川は往古に洪水などで流れをかえたが、刀出南端の字古川もその名残りであつた。この地を、刀出の田麿佃郎は村人と協議して明治45年開発工事にかかった。病弱の彼は弟の連郎に代行させ、約半年かかって1町5反歩の田地を開墾した。この碑はその頌徳をたたえたもの。

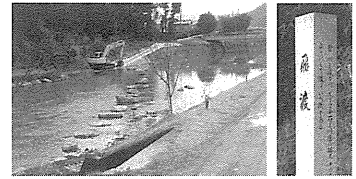
専覚寺 書写山八王子神社の別当をしていた宝光院の春永法師が瀧口村(六角村)に隠遁してから蓮如に帰依し、南無阿弥陀仏の名号の一軸をもらって六角坂に一字を建てたのがはじまり。その後絶えていたが再興され、元和(1615~24)のころ今の地に道場を建立し、慶安元年(1648)玄智のときに宝光山専覚寺と名づけた。

六角の大年神社 六角の氏神で、慶長年間(1596~1615)の創建という。もとは現在地より数十m奥の万灯山麓にあつたが、江戸末期に現在地に移された。秋祭りの宵宮に柴灯といって長さ1m余りの割木を井桁に組み、2m余りの高さに積み上げてこれを燃やし神に供える神事がある。

六角坂笠塔婆 六角坂登り口にある。上部に阿弥陀のキリクが刻まれた塔身1.6mの笠塔婆で市内では最大。宝珠は後補であるが、塔身の形状や傘の曲線などは室町時代前期の特徴をよくあらわしている。市指定文化財。

権頭源六角公紀恩碑 六角坂笠塔婆からもう少し参道を登った右手に亀に乗った大きな碑がある。赤松氏一族の本城義俊は山名宗全との戦いに敗れ、その子権頭は逃れて山を下り、荒地を拓いた。やがて形成された集落を六角と称するようになったとある。碑文は亀山雲平の門下生本城貞作の撰で、明治30年の建立。

美寿又地藏 六角橋の少し東にある。はじめ大歳神社の一の鳥居の傍に安置されていた地藏と伝えられ、祀られた場所が転々としたのち現在地に祀られている。凝灰岩製で磨滅がはげしい。



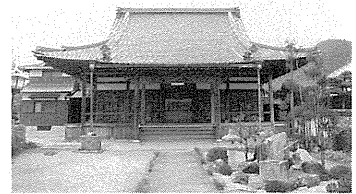
飛渡



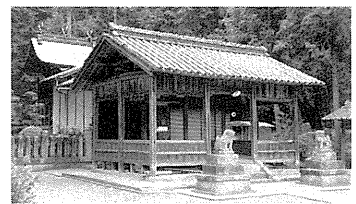
刀出の固寧倉



古川開墾記念碑



専覚寺



六角の大年神社



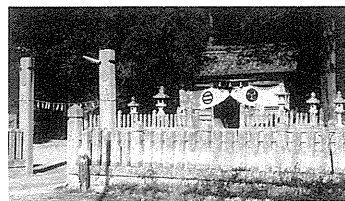
権頭源六角公紀恩碑



六角坂笠塔婆

美寿又地藏

大国玉神社 打越の氏神。『播磨鑑』に白鳥神社とみえ、天文11年(1542)河内国より白鳥明神を勧請。祭神の大君神は日本武尊没後の白鳥の改名。もと白鳥池のほとりにあったのを現在地に移した時期は、「奉造立」の木札から天和3年(1683)と考えられる。文化8年(1811)の打越村の古文書によると、<sup>おおきみにやくおうじ</sup>大公若王子大明神とある。のちに大歳神を併せ祭った。明治7年大国主命を併せ祭って大国玉神社と改称した。天和2年の作とみられる打越八景など数十点の絵馬や、めずらしい鉄製の狛犬がある。現在新築工事中で、平成13年10月完成の予定。



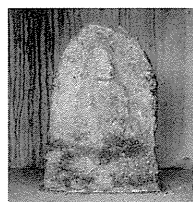
大国玉神社

福乗寺 打越にある真宗の寺。大永元年(1521)善応(蓮如の高弟空善の弟子)の開基。境内の隅に寺や村に尽くした龍野藩士小山五郎蔵の碑がある。織田信長の石山本願寺攻めに対抗して戦った大塚三郎右衛門に与えられた実如真筆の文が寺室になっている。



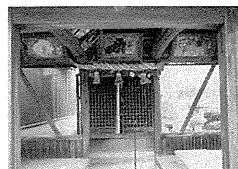
福乗寺

八王子の石仏 昭和30年笹川の堤防改修中に川底から見つかった石仏を水難の加護仏と信じた村人が発見現場より少し南の道路端に小堂を建てて祀った。



八王子の石仏

荒神宮 「毛野の荒神さん」とよばれている。古文書に、「鎮座家野三宝荒神、宝永7年(1710)12月勧請」とある。三宝荒神は仏・法・僧の三宝を守護する神で<sup>かまど</sup>竈の神として祭ることが多いが、ここでは疣取りの神として信仰されている。拝殿につるされている穴のあいた小石で疣をこすり、とれたらお礼に穴のあいた石をつるす風習が残っている。



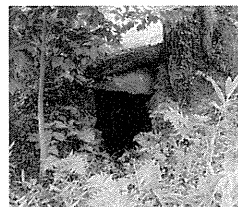
荒神宮

大神神社 白鳥山東麓の奇巖に鎮座する毛野の明神さん。奈良県桜井市の三輪明神を大正8年に勧請したもので、農家が副業にした播州手延素麺生産の守り神として祭った。



大神神社

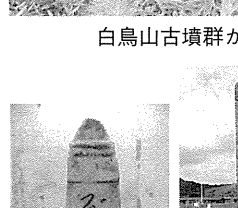
白鳥遺跡 山陽自動車道建設時に、縄文時代晩期から弥生時代にかけての集落跡を発見。土器・石鎌など多くの出土品と、弥生時代中期の竪穴式住居跡9棟・土杭・溝などが確認された。



白鳥山古墳群から

白鳥山古墳群 12基の古墳があったが、明治初年白鳥新池を造るときに取り壊して池の石積みに使用し、今は2基しか残っていない。

打越の板碑 白鳥山東麓にある。上部に釈迦の種子バクーが刻まれ、「道群類 皆成仏道 康永四季(1345)四月」の銘がある。凝灰岩製で高さ117cm。市内では最古の板碑の一つである。



打越の板碑

天王道 宝暦7年(1757)の村絵図に記載される。書写横関橋の西にも字「天王道」がある。後醍醐天皇が隠岐を脱出して京都に向かった道とか、「牛頭天王」に由来する道といった説がある。

播磨一之宮旧址 六角南部の田の中にある。一之宮(宍粟郡一宮町)から御神霊を播磨国総社に遷宮のとき、この地に休息したという由来から分霊を祭ったが、水害にあったため御神霊を一之宮に遷宮した。この石碑はそれを史跡として残すため大正末期に建立した。



播磨一之宮旧址